

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 1 区分

【発行日】平成25年10月3日(2013.10.3)

【公表番号】特表2011-501035(P2011-501035A)

【公表日】平成23年1月6日(2011.1.6)

【年通号数】公開・登録公報2011-001

【出願番号】特願2010-530381(P2010-530381)

【国際特許分類】

F 0 2 M 51/06 (2006.01)

F 0 2 M 51/08 (2006.01)

【F I】

F 0 2 M 51/06 D

F 0 2 M 51/08 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年8月15日(2013.8.15)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

電磁的に操作される、内燃機関の燃料噴射装置に対する燃料噴射弁であって、  
弁長手軸（10）と、

磁気コイル（1）と、内極（2）と、外部の磁気回路構成部分（5）と、運動可能なアンカー（17）とを弁閉鎖体（19）を動かすために備えている電磁回路の形態の励起されるアクチュエータとを有しており、当該弁閉鎖体（19）は、弁座体（15）に設けられている弁座面（16）と協働する形式のものにおいて、

ガイド体（62）が、前記アンカー（17）の内部の長手方向穿孔（23）内および前記内極（2）の内部の流れ穿孔（28）内に設けられており、

前記ガイド体（62）はアンカー（17）内または内極（2）に固定ベアリングを用いて固定されており、各別の構成部分において固定せずにガイドされ、

前記ガイド体（62）はスリーブ状に構成されており、

前記内極（2）内に固定されたガイド体（62）の使用可能な相対的な運動長は、前記アンカー（17）の長手方向穿孔（23）において、内極（2）とアンカー（17）との間の最大動作隙間（63）と等しいまたはそれよりも長く、または、前記アンカー（17）内に固定されたガイド体（62）の使用可能な自由運動長は、前記内極（2）の流れ穿孔（28）において、内極（2）とアンカー（17）との間の最大動作隙間（63）に等しいまたはそれよりも長く、

前記ガイド体（62）は、前記固定ベアリングの側で、押し込みによって固定されており、

前記ガイド体（62）は環状に構成されており、

前記アンカー（17）の軸運動の間の耐回転位置を保証する回転止めが多角形の形で設けられており、当該回転止めは、前記ガイド体（62）に取り付けられ、かつ、前記アンカー（17）の内部の長手方向穿孔（23）および内極（2）の内部の流れ穿孔（28）の少なくとも一方に取り付けられている、

ことを特徴とする、電磁的に操作される燃料噴射弁。

【請求項 2】

前記ガイド体（６２）は、オーステナイト組織を備えた材料から製造される、請求項１記載の電磁的に操作される燃料噴射弁。

【請求項３】

前記アンカー（１７）の外周にはガイド群が設けられていない、請求項１または２記載の電磁的に操作される燃料噴射弁。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００２４

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００２４】

しかし、アンカー１７内または中心部分２内に回転固定部を設けることもできる。この回転固定部は、その軸運動の間、アンカー１７の耐回転位置を保証する。図５は、アンカー１７の第２の実施形態を備えた、図３における線Ⅴ－Ⅴに沿った断面を示している。これは例として示された回転固定部を含んでいる。ガイド体６２のガイド部分ここでは例えば六角形として構成されている。これはアンカー１７の相応に成形された長手方向穿孔２３内に入れられている。アンカー１７が固定ベアリング面を構成する場合には、回転固定部は中心部分２内に比較可能なように設けられる。回転固定部が択一的に、他の方法の平坦化、多角形、凹部または、相応の方法で、アンカー１７または中心部分２内に、およびガイド体６２に取り付けられている構造体を介して実現されてもよい。回転固定部は一般的に有利には、弁の機能値を持続させるためのものであり、これは例えば流量および放射角度および閉鎖特性である。